



No.8 「play with me」

川西 佑佳

クラフトテープ、絵画、小物(既製品)

現代社会において、大人は遊びを忘れがちであり、SNS や推し文化などの消費は楽しむものの、真の心の豊かさをもたらす遊戯は少ない。

また、子どもたちも外遊びが減少し、遊戯の認識が難しくなっている。しかし、日常生活には遊戯要素が潜んでおり、仕事や散歩、美術制作の過程などにも遊びの要素が存在する。この気づきが心の豊かさを生むと考え、本作では、制作(主に絵画やインスタレーション)を通じて遊戯と制作の要素を共存させ、解釈の余地を常態化する場を目指す。ここでの遊戯の定義はロジェ・カイヨワの「自由、隔離、未確定、非生産的、規則、虚構」を基にし、特に「規則(逸脱と再規則化)」「隔離(空間や時間の制約)」「虚構(仮象)」を主要要素とする。制作では即興性を重視し、現地の空間と搬入可能時間に合わせて搬入兼、制作を行う。

使用する絵画やクラフトテープなどの素材は本来の用途を逸脱し、インスタレーションの中で再規則化され、場に滞在する。これらの仮象的表象は、第三者に制作や現実認識を問い直す契機を提供する。本作はシリーズの 8 作目であり、遊戯のルールに則り、過去作品を場に応じて選定・可変させるインスタレーションである。